

令和3年度 第4回大府市協働推進委員会 会議録

開催日時 : 令和4年3月20日(日)午後3時15分から午後3時40分まで
開催場所 : 大府市民活動センター「コラビア」 会議室
出席者 : 昇協働推進助言者
中村委員長、天野副委員長、藤井委員、野川委員、山川委員、
鈴木委員、深谷(亮)委員、山内委員
事務局(部長、課長、係長、主事)の計13名
欠席者 : 深谷(太)委員
傍聴者 : なし(一般公開中止)

(司会・進行:協働推進課長)

1 あいさつ(委員長)

先ほどは実績報告会へのご参加をいただき感謝申し上げます。実績報告会では、幅広い分野の研究をされている昇協働推進助言者から講評をいただいた。非常時に社会が回っていくための仕組みが必要となると感じている。

2 議題

(1)大府市協働のまちづくり推進のための指針Ⅲの行動計画の令和2年度実績について

- 大府市協働のまちづくり推進のための指針Ⅲの行動計画の令和2年度実績について、資料に基づき事務局から説明。
 - ・「大府市協働のまちづくり推進のための指針Ⅲ」とその行動計画について
 - ・行動計画の体系と各評価指標の達成状況について

【質疑応答】

委員:13ページの事業者による協働の促進については、どのような数値か。
事務局:アダプトプログラムに登録いただいた百数団体のうち、事業者の数が47事業所あるため、その数を記載している。

助言者:そんなに多くの方が登録していることに驚いた。

事務局:コロナ禍で市民活動が難しい状況の中でも取り組むことができる活動としてPRをさせていただいたところ、事業者については年間1団体程度、全体についても昨年100団体を超え、増加傾向にある。引き続きご協力いただけるようお声がけしていきたい。

助言者:減少していないということは、一度登録した団体は、毎年度アダプトプログラムを実施していくことになるのか。

事務局:基本的に、登録いただいた団体については、登録する際に活動頻度を確認しており、一度登録した団体は基本的に引き続いて活動していただいている。高齢化等で活動の継続が難しくなった団体については活動辞退ということもあるが、差し引きすると団体数は増加している。

委員:自治区の加入世帯率が減少しているとのことだが、自治区を脱退するという事は少ないと思うので、世帯増加率をみると加入世帯が変わっていなければ加入世帯率は減少していないのではないか。

事務局：新規加入世帯が加入しないと加入率が下がっていくということは実際あるため、より一層加入促進に繋がる支援をしていきたいと考えている。現状として、自治区を退会するというお話を多く伺う。高齢化に伴い、組の役を務めることが難しいというご相談を多くいただく。新しく転入した方への加入促進を進めるため、自治区・自治会加入マニュアルを自治区ごとに作成し、自治区と共に加入促進に繋がる活動も進めているので、ご理解をいただきたい。

委員：マンションが新築されることも多いが、その場合の自治会はどうなっているか。加入されている方は多いのか。

事務局：マンション単位で加入の案内をさせていただいているが、マンションの性質上難しい場合も多い。加入率については、マンション単位で自治会を作っているところは高い。ただし、マンションだけで組などを作っていない場合は比較的低い状況にある。

助言者：組を作るにはどの程度の世帯数が必要なのか。

事務局：50世帯程度が多い。大きなマンションだと100世帯程度あるため、その場合は自治会を作ってください場合もある。

委員：平成19年から市民活動団体ができ、活動をしていたと思うが、最初のころに企画提案があった団体は現在も活動しているのか。

事務局：市民活動団体の中には解散した会もあるが、音楽関係の団体は継続しており、指定管理委託を受けるまで成長している。

助言者：解散した団体、継続している団体などを参考として、次回以降にわかる範囲で教えてもらいたい。

事務局：現在の動向について確認する。

3 その他 特になし。

—以上—